

小学校教員の方へ

ESDゲーム『もし、近所で!? つきのくんと考える「開発と環境」』を小学校でご利用いただくことを願って、学習指導要領との整合性や授業展開例について、私たちがなりに作成してみました。

■「開発と環境」による学習ねらい

①社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(学習指導要領「社会」第5学年の目標(2)より)

②社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

(学習指導要領「社会」第5学年の目標(3)より)

③日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

(学習指導要領「家庭」第5学年及び6学年の目標(2)より)

④実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(学習指導要領「総合的な学習の時間」の目標(2)より)

⑤道徳科に求められる内容との関連

B：主として人との関わりに関すること

[相互理解、寛容]

[第3学年及び第4学年]

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にする。

[第5学年及び第6学年]

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

以上から、授業展開例は、小学5年生の社会科の中で扱うものとして、他の科目(理科、家庭、道徳、総合)との関連付けを行いながら進める工夫のひとつとして紹介させていただきます。

■授業展開例

対象学年

小学5年

教科・単元

社会科：人と自然が共に生きる国土

1. 学習のねらい

我が国の国土の自然環境と国民生活の関連について、学習の問題を追及・解決する活動を通して、関連機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解すること。

2. 単元における位置づけ

大気汚染、水質汚濁などの中から具体的事例を取り上げつつ、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように促す手段のひとつとして利用する。

3. 他教科との連携

理科：生物と環境について追究する中で、生物と環境の関りについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること（第6学年B(3)生物と環境）につなげる。

家庭：「環境に配慮した生活」(C(3))において、自分の生活と身近な環境に配慮して、持続可能な社会の構築に向けて物の使い方などについて考え、工夫することを、実践的に学習できるようにする。

道徳：自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にしながら、感想や提案を表現できるようにする。

総合：日常の気づきから、自分で課題を立てて、地域に出かけて情報を集め、環境と生活を守るための取組みのあり方について整理・分析する。

4. 地域社会との連携など

①地域の歴史に学ぶ

地域で過去に公害防止や自然保護などの活動に従事した方がおられたり、記録があったりしたら、お話を伺ったり教材としたりして、関連を持たせる。

②具体的事案への配慮

地域で社会問題化している事案があり、その事案に議論が展開した場合は、特定の見方に偏らないように配慮する。

③他地域の事例について

身近なところに事例が見当たらない場合は、住民アセス支援サイト「歴史」に紹介されている住民アセスの事例や、公害資料ネットワークで紹介されている各地の公害被害に関する資料を参照されたい。

5. 指導計画の例

学習月：1～2月（目安）

単元：「人と自然が共に生きる国土」 学習指導要領（1）ウ

時数：7時数

留意点：グループで協力しあうこと、グループの中での感じ方の違いを知ること、地域には様々な立場や考え方の人がいて配慮が必要であることへの気づきを促す。

6. 授業の進め方の例

（1）地域の人々の努力を知る（4時数）

①公害病や薬害、自然破壊の経験を知る（1時数）

学習活動	<ul style="list-style-type: none">・視聴覚教材を使って、我が国がかつて激甚な公害や乱開発を経験することともに、克服に向けて努力してきたことを知る。・今も同じような問題が形を変えて繰り返されたり、後遺症や乱開発の爪あとがあったり、途上国などで同じような問題が繰り返されたりしていることも知る。
留意点	<ul style="list-style-type: none">・悲惨さだけではなく、改善に向けた努力に関心を向ける。・次回に扱う具体的な事例の背景を知ることができようにする。・「なぜそういうことが起きたのか」考えさせる。
評価	<ul style="list-style-type: none">・現在のこと、世界のこと、結び付けて考えようとしている。・被害を受けた人や地域のこと、思いを寄せようとしている。

②公害病の被害を知ろう（1時数）

学習活動	<ul style="list-style-type: none">・公害被害者の証言などを読んで四日市公害などの公害経験を知る。・公害の被害や乱開発は回復不可能な問題であることを知る。・被害者自身が努力し、対策を促してきたことを知る。
留意点	<ul style="list-style-type: none">・証言や視聴覚教材を使って具体的に想像できるようにする。・喘息など身近な病気と関連づけて苦しみを理解できるようにする。・身近にこのような歴史があれば関連づける。
評価	<ul style="list-style-type: none">・公害病の痛みや苦しみを理解しようとしている。・公害問題を身近なものとして考えようとしている。

③公害を防ぐために努力した人たち（1時数）

学習活動	<ul style="list-style-type: none">・三島沼津コンビナート建設反対運動を事例として、自分たちの地域を守ろうとした人たちの努力を知る。・自分たちで地域を調べ、対策を考えて、行動したことを知る。・環境を守った成果が今に生きていることを知る。
留意点	<ul style="list-style-type: none">・ただ反対したのではなく、どんな影響があるかを学習し、調査して対策を働きかけたことに気づくようにする。・今日の住みやすい環境につながっていることに注意を向ける。
評価	<ul style="list-style-type: none">・地域のために努力した人たちに思いを寄せようとしている。・自分ならどのように行動するだろうか考えようとしている。

④環境を守る仕事（1時数）

学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・環境はいろいろな人たちの働きで守られていることを再認識する。 ・地域をイメージした地図に、様々な機関や人々の暮らしを模して、環境を守る仕事をカードなどで張り出していく。 ・ごみや下水の処理、林業や農業、駅前や公園を清掃する人、工場での排煙や排水をきれいにする人など、いろいろな仕事を思い浮かせて、環境を守る仕事の幅広さを知る。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく子どもたちから思い浮かせる。 ・「仕事」には、ボランティアを含め、地域の人たちの日々の努力も含めてとらえられるようにする。 ・図書館などで事前に環境を守る仕事を調べるなど予習を促す。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな仕事を思い起そうと努力し、発言している。 ・事前に調べて、わかったことを発言しようとしている。

(2) 身近な開発と環境を考えよう（3時数）

⑤もし、近所で!?(1時数)

学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・3～4人程度の班でWEBゲーム「開発と環境」を使って、身近な開発を選んで、その理由を考え、メモする（メモ①）。 ・開発地域を選んで、その理由を考え、メモする（メモ②）。 ・どんな影響があるかを話し合っ、て、「心配リスト」をまとめる。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・開発をネガティブに捉えず、より良い開発を考えるようにする。 ・それを建設する時（工事中）や使われる時（供用時）にどんな環境への影響があるか、気づきを多く引き出し、議論させる。 ・パソコンへの入力特定の子に偏らないように注意する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことを想定して発言しようとしている。 ・他の人の声に耳を傾けている。

⑥どんな働きかけをしたらいいか考えよう（1時数）

学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「心配なことリスト」として出力されたワークシート（ワードファイル）にメモ①とメモ②を入力する。 ・さらに、開発者への要望や提案を班で話し合っ、て、その内容をワークシートに入力する。 ・次回での班としての発表方法を相談する。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの入力をしながら、これまで考えてきたことや議論してきたことをふりかえるようにする。 ・開発者の立場も考えて要望や提案ができるようにする。 ・パソコンへの入力特定の子に偏らないように注意する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人も一緒に作業できるように配慮している。 ・いろんな感想や意見を表現できるように配慮している。

⑦みんなの提案を交流しよう（1時数）

学習活動	<ul style="list-style-type: none">・前回作成したワークシートの内容を発表する。・各班の発表を聞き、住民や開発者のつもりになって質問する。・より良い環境のためにどんな開発が必要か意見を交流する。
留意点	<ul style="list-style-type: none">・ワークシートを使って、どんな開発を、どんな場所でやるときに、どんなことが心配なので、どんなことに開発者には配慮してほしいかと、順序だてて説明できるようにする。・環境を守るためにどんな努力が必要になるのか再確認する。・公害の経験や住民アセスの取組みなどをふりかえり、地域の人たちが自分たちで考えて、意見することの大切さを考える。
評価	<ul style="list-style-type: none">・班の仲間と分担しあって発表するように努力している。・他の人の感想に耳を傾けている。

7. 関連する副教材やプログラムを提供しているサイト

①住民アセス支援サイトの「つくってみよう！環境マップ」

このWEBゲームを提供しているサイトで、地域に出かけて環境の現状などを調べて、地域社会に提案するためのマップづくりの方法を紹介。小学3年生向けの授業展開例も提案している。

<http://np0.omachi.org/works/residents/#M-4>

②公害資料館ネットワークの「公害資料館のわ」

各地での公害問題に関する資料保存や展示を行っている資料館のネットワークでつくっているサイトで、公害被害について知る教材を紹介。また、公害被害の「語り部」を紹介している資料館もある。

<http://kougai.info/>

③ユニセフの「持続可能な開発目標」副教材ポータルサイト

SDGs の 17 の目標にかかわる国内外のさまざまな課題や取り組みをトピックとして紹介している。興味・関心がある課題や取り組み、解決策を考えたいとおもった目標を入り口にして、「これからの社会を、持続可能でより良いものとするためにはどうしたらよいか」を一緒に考えるきっかけを提供している。

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/>



つきのくんと考える「開発と環境」

ワークシート

1. 開発計画	(選んだ理由：メモ①)
(自動的に反映)	(入力)
2. 開発地域	(選んだ理由：メモ②)
(自動的に反映)	(入力)
3. 心配なこと	(自動的に反映)
4. 開発する人への 要望や提案	(入力)
5. ゲームの感想	(入力)
名 前	

ゲームをしてくれてありがとう！

※大人や先生からの一言

